

ティーチング・ステートメント

所属 北海道科学大学工学部情報工学科

名前 真田博文

作成日 2019 年 7 月 27 日

更新日 2023 年 3 月 22 日

【責任】

- ・工学部情報工学科に所属し、情報工学に関連する座学、実験科目（プログラミング、電気電子回路、システム開発に関連する内容）を担当している。また、ゼミ学生として3年生、4年生に研究指導、キャリア指導を行っている。（シラバス）
- ・大学院修士課程情報工学専攻で、情報工学に関する座学および研究指導、キャリア指導を行っている。（シラバス）
- ・学生の課外活動として、「+情報工学プロジェクト」と名付けた試みを行っている。

【理念】

学生には、大学での学びを生かして地域社会で主体的に活動できる人材になって欲しい。地域社会における他者との関連性の中に自分の居場所、活動場所を見つけることが充実した人生を送っているという実感のためには重要な要素の一つであると考えている。

大学での学びを生かして活動するために、将来にわたって必要な基礎的知識とスキルを確実に身に付けてもらうこと、自分で考え、学び続ける姿勢を身に付けてもらうこと、他者と協力して物事を解決する能力を身に付けてもらうこと、新しいことにチャレンジする姿勢を持つことを重視してもらいたい。

AI を活用する時代になり、明確な伝達を行う力、質問をする力、傾聴する力、情報の整理・分析をする力がますます重要となっている。学生が大学で様々な経験をするによりこれらの力を磨くために最適な環境を提供することが我々教員にとって重要な使命であると考えている。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために授業およびゼミにおいて、以下に述べる方針1～方針4に基づき活動している（カッコ内はエビデンスとなるもの）。

●方針1 基礎的知識とスキルの重視

- ・自分自身の教育スキルの向上に努め、学生が学びやすいと感じる授業を行う。
- ・小テストやアンケート等を授業中に複数回用いて理解の定着を確認しながら授業を行う。（moodle）
- ・学生がいつでも学習に利用できるように授業を補完する動画教材を提供する。（moodle）
- ・座学においても演習等（コンピュータシミュレーション等）を組み入れて集中力の維

持、理解の定着を図る。(moodle, 使用しているソフトウェア)

●方針2 自分で考え、学び続ける姿勢を持つ

- ・プレゼンテーションをできるだけ多く経験してもらう。(授業, ゼミ活動の写真)
- ・正解が決まっているわけではない課題に挑戦してもらう。(実験科目の課題例)
- ・資格試験をレベルに合わせて計画的に受験するようにアドバイスをする。面談の結果は学科教員などと共有し学生の成長につなげる。

(PF 面談の記録)

- ・自分の将来に自分で責任を持つように面談などで日常的にアドバイスをする。面談の結果は 学科教員などと共有し学生の成長につなげる。

(PF 面談の記録)

- ・学生自身が自らの成長度合いを確認し、自己肯定感を高めるためのサポートを行う。

(PF 面談の記録)

●方針3 他者と協力して物事を解決する姿勢を持つ

- ・実験科目においては、グループでの協力作業を含むように設計する。
(シラバス, 作業の様子の写真)
- ・ゼミ配属された3年生にプレ卒論テーマを与え、調査・研究・報告を行ってもらう。
(テーマ例, 写真, 成果物)
- ・ゼミ活動においては、ゼミにおける行事企画や運営他、様々な学内外行事に積極的に関わるように指導する。(写真, 参加行事の例)
- ・企業と連携して授業実践、教材開発を行い、社会に出てから必要となる対人スキルを経験してもらう。(授業例, 教材例)

●方針4 新しいことにチャレンジする姿勢を持つ

- ・学んだプログラミング技術を用いたアプリ開発を奨励する。
(呼びかけの様子, 成果物)
- ・実験科目においては最新技術に触れられるテーマを準備する。
(シラバス, 写真)
- ・学会発表など学外での成果発表を行う機会を多くする。
(プログラム, 写真)
- ・「+情報工学プロジェクト」で、自ら設定したテーマにチャレンジする学生をサポートする。

【評価・成果】

- ・授業アンケートにおける学生の授業満足度は適切なレベルである。(アンケート結果)
- ・教員同士による授業参観において、優れた点、改善点ともに指摘を受けその後の授業改善に反映させている。(FD 報告書)

- ・企業関係者と多く接触し、カリキュラムに対するアドバイスを受けている。また、学生教育への参加を依頼している。
- ・企業関係者と多く接触し、学生の特徴にあった就職先を紹介できるように準備をしており成果をあげている。（就職先リスト）

【目標】

- ・最新の情報技術に関連した実験教材を開発し、実践する[2023年度以降継続的に]。
- ・動画教材の種類を増やすとともに、レベルの多様化を行う[2023年度以降継続的に]。
- ・地元企業等の協力をもとに、学生が実務経験のある技術者と接触する機会を増やす[2023年度以降継続的に]。
- ・ソフトウェアやシステムの開発コンテストなどを開催または参加し、学生のチャレンジの機会を増やす[2023年度以降、継続的に]。
- ・学生のレベルに合わせた細やかな教育が行えるように個別最適化教育システムの導入、実践を行う[2023年度以降、継続的に]。

上記の目標については、2023年度終了時点で振り返りを行って、再度の目標設定につなげる。